公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放	課後等デイサービス より	みち(合同会	会社ハンディヤ)	
○ <b>保護者評価実施期間</b>		2025年 6月 1日 ~			2025年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		3	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	2025年 6月 1日			~	2025年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日 2025年 9月 29日					

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
	定期的なミーティングの他、利用者の日々の状態像に合わせ、	利用者対応に関わらなかった職員へも、翌日朝の申し送りの際	案件・利用者毎にメインで関わった職員が個別課題、設定活
	きめ細かく、個別ケース会議を行っている点。	や職員間グループLINEで情報共有を行っている。変化等につ	動を組み立てを担うケースが多く、時間的にも作業量的にも
1		いても随時共有できている。そこで見えた利用者ごとの変化や	属人化しないような仕組みを構築する。
1		課題について、個別対応だけでなく設定活動(全体で行う活	
		動)の内容に落とし込み、利用者が普段の生活の中でより過ご	
		しやすくなるよう工夫している。	
	連絡帳アプリを活用し、保護者へ利用者の状況を個別課題、設	保護者に利用者の様子や課題、頑張りが伝わるよう、詳細に記	充実した内容の記載を継続できている反面、記載に時間がか
	定活動、自由活動ごとに、詳しく伝えている。その他気づいた	載している。支援記録として、振り返りにも活用出来ている。	かる為、複数児童に共通する部分についての定型化、作業療
2	点などもアプリにて連絡することで、保護者との連携を良好に	振り返りによる気づきは職員間で共有し、次の支援に活きるた	法分野等の解説的な文面に関してはAIを活用するなど、記載
	取れ、利用者の利益に資している点。	め、意識的に詳細な記載に努めている。	時間の短縮を図る。
	相談支援事業所の他、児童相談所や学校、病院、訪問看護事業	利用者や利用者を取り巻く環境に変化があった場合、関係機関	現在の、支援の方向性を関係機関と擦り合わせる取り組みを
	所など、日頃から多くの関係機関と連携を取っているため、利	にも情報を提供し、相談の機会を設け、意見交換を行い、支援	継続し、利用者を主体とした支援の方向性であるか見誤らな
3	用者を直接的支援だけでなく、間接的にも支援できている点。	の方向性をすり合わせている。関係機関ごとに方向性がバラバ	いよう、連携をさらに強化したい。
3		ラにならないことを重視している。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	(保護者・従業者評価の結果を受けて) ・父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 → いいえ	括)に保護者交流の場の提供を計画し実施を図る。	直近の設定活動に、季節やイベントに合った取り組み(焼き芋会、ハロウィンパーティー等)を予定しているため、保護者(きょうだい)も招待し、交流の機会を提供する。同様に年間の中でも利用者とともに保護者同士も楽しめる機会を提供できるよう計画を行う。
2	・第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげ	伴って第三者評価の実績も無い。今後、第三者からの評価機会 をどのように受けていくかのプロセス決定が課題である。	直近の外部評価の機会として、実地指導が予定されているため、その際に外部評価を受ける手段について相談する。現在のところは、財務・経営等関しては顧問(社会保険労務士、税理士)に諮り、支援そのものに関しては児童障害分野の職能団体(麦の子会)のスーパーバイズを受け、質を担保している。
3	(保護者・従業者評価の結果を受けて) ・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。 → いいえ ・事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っているか → いいえ		社会福祉協議会やまちづくりセンター、町内会に、交流を図れそうな機会や地域のニーズ、児童発達支援事業者の取り組み前例などを聞き、取り組みを図る